

令和 6 年度  
運営に関する計画  
(最終評価)



大阪市立梅南中学校  
令和 7 年 2 月

# 目 次

## 1. 令和6年度 学校経営計画

1. 学校経営計画	P. 2
-----------	------

## 2. 様式1 中期目標と年度目標

1. 学校運営の中期目標	P. 3
2. 中期目標の達成に向けた年度目標	P. 7

## 3. 様式2 年度目標の達成に向けた取組内容

P. 10
-------

### 【安心・安全な教育の推進】

1. 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現
2. 基本的な方向2 豊かな心の育成

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

3. 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上
4. 基本的な方向5 健やかな体の育成

### 【学びを支える教育環境の充実】

5. 基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
6. 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり
7. 基本的な方向8 生涯学習の支援
8. 基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

### 【その他】

## 大阪市立梅南中学校運営方針

校訓 自主 協力

キャッチフレーズ

### 「良い生活習慣」と「良い学習習慣」をつけよう

めざす学校像 [中期的な学校経営ビジョン]

**根っこのある生徒に育てる学校**

～地域・母校に誇りと愛着をもちながら成長する人を育てます～

※「根っこ」＝自分の生まれ育った地域や母校を愛し、誇りをもつことで、自分が自分であることを肯定的に認識し、自分を一個の人格として確立させること。

めざす子ども像

自ら学び進路を切り拓く子ども  
自ら進んであいさつする子ども  
自ら律することのできる子ども

今年度の重点目標

「令和6年度『学校運営の指針』等について」(令和6年3月22日付教委校(中)第242号)の「令和6年度『学校運営の指針』」で示された「3つの『最重要目標』」は、

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

である。そこで、今年度の梅南中学校の重点目標を

### 「学力向上」と「不登校の克服」と設定した。

以下に4つの項目を挙げると、

- ①基本的な生活習慣を確立させ、健康な身体と健全な情操を育み、安心で安全な学校づくりをめざす。
- ②主体的・対話的で深い学びを通じた、思考力・判断力・表現力の資質育成に基づいた学力・体力の向上を図る。
- ③生徒が様々な行事・委員会活動・部活動に取り組むこと、および、教職員が生徒の望ましい行動を育て支援することにより、自主的・積極的な態度を育み、自己肯定感、自尊感情を高揚させる。
- ④小中連携と地域連携を通じて、「地域の学校としての認知度」を向上させるとともに、生徒・教職員に「地域の学校としての自覚」を向上させる。  
また、認知度の向上により、学校選択制で「選択される学校」をめざす。

## 大阪市立梅南中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

平成30年度より令和2年度までの3年間、「校長裁量拡大特例校」に選定され、学力向上に取り組んできた。「学習環境の整備(ICT機器、図書室の整備等)」「教室環境の整備(学級文庫、加湿空気清浄器の設置等)」「学力(体力)向上(「主体的・対話的で深い学び」の研究推進、漢検、英検の実施等)」「小中一貫教育の充実(英語科の小学校専科指導、小中合同体力測定等)」等に取り組んだ3年間であった。

また、令和4年度から大阪市教育振興基本計画が新たに策定され、3つの最重要目標「安全・安心な教育の推進」「未来を切り拓く学力・体力の向上」「学びを支える教育環境の充実」のもと、本校でも様々な取組をすすめている。

**[現状]**

「全国学力・学習状況調査」結果より

- ・国語：R3→66(全国平均：64.6)、R4→64(全国平均：69.0)、R5→66(全国平均：69.8)
- 数学：R3→53(全国平均：57.2)、R4→42(全国平均：51.4)、R5→45(全国平均：51.0)
- ・「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する割合は、  
R3→80.5%(全国平均：76.2%)、R4→82.2%(全国平均：78.5%)、  
R5→73.8%(全国平均：80.0%)
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に回答する割合は、  
R3→68.3%(全国平均：68.6%)、R4→57.7%(全国平均：67.3%)  
R5→78.5%(全国平均：66.3%)

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果より

- ・体力合計点 男子：R3→45.8(全国平均：41.2)、R4→49.7(全国平均：41.0)  
R5→46.1(全国平均：41.3)
- 女子：R3→45.7(全国平均：48.6)、R4→45.5(全国平均：47.4)  
R5→44.1(全国平均：47.2)

令和5年度末校内調査結果より

- ・不登校生徒の在籍比率  
R3→17人(在籍比率：11.89%)、R4→28人(在籍比率：19.05%)  
R5→20人(在籍比率：14.70%)
- ・暴力行為(対教師・生徒間)認知件数  
R3→0件、R4→0件、R5→1件

### 【課題】

令和2年度で特例校としての3年間は終了したが、令和3年度～令和5年度の現状をふまえ、本校の重点目標として、生徒の「学力・体力の向上」と「不登校の克服」に全力で取り組んでいきたい。「良い習慣をつける」をキーワードとして、安心・安全をベースに、心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための様々な力を身に付けさせたい。小規模校である強みを生かしつつ、保護者、地域、校区小学校、その他関係諸機関等の連携を強化し、安全で安心できる教育のコミュニティづくりに取り組むとともに、小中一貫した9年間を見据えた教育を推進することで、義務教育修了までに社会で生き抜くために必要となる基礎的な知識や力の習得を徹底してめざしたい。生徒に「よい生活習慣」と「よい学習習慣」を身に付けさせ、国際化の進展や災害の発生等に立ち向かう「生き抜く力」を備え、未来を切り拓く心豊かな生徒を育みたい。また、昨年度から不登校生徒が教室へ入室するためのステップ段階としての教室（ステップアップルーム）の運用を始めた。

生活指導面では、数年前までの大きな「荒れ」の状況から脱却できている。対生徒間や対教師における暴力行為もここ数年は0～1件程度に落ち着いている。引き続き、生徒の寄り添う指導を丁寧にしていく。また、渡日生徒の編入が毎年数名おり、日本語がまったくできない状況での学校生活を過ごさなければならない状況がある。日本語指導教育センターや通訳者との連携をさらに深めていく必要性を感じる。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

#### ◆基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。【R3：80.5%】
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、82%以上にする。【R3：80.5%】
- 令和7年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、96%以上にする。【R3：89%】
- 毎年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を、毎年、前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。

#### ◆基本的な方向2 豊かな心の育成

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、85%以上にする。【R3：80.5%】
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。【R3：68.3%】
- 令和7年度末の生徒アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、令和3年度より向上させる。

【R3:95%】

### 【未来を切り拓く学力・体力の増加】

#### ◆基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

- 令和7年度の中学生チャレンジテストにおける標準化得点（対府平均比）を、令和3年度より3pt 向上させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、35%以上にする。【R3：29.3%】
- 令和7年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階での CEFR A1 レベル（英検3級）相当以上の英語力を有する生徒の割合を、50%以上にする。【R3：53.8%】

#### ◆基本的な方向5 健やかな体の育成

- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、1.01以上とする。（全国平均を1とした場合の割合）
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を、53.6%以上にする。【R3：男子42.3%、女子36.8%】
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」のそれぞれの項目について、肯定的に回答する生徒の割合の平均を88.5%以上にする。【R3：87.0%】

## 【学びを支える教育環境の充実】

### ◆基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「1, 2 年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と回答する生徒の割合を、30%以上にする。【R3：12.2%】
- 令和 7 年度の生徒アンケートにおける「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、100%にする。

### ◆基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- 令和 7 年度に「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 49.7%以上にする  
(基準 1：時間外勤務時間が 45 時間を超える月 0、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下)

### ◆基本的な方向 8 生涯学習の支援

- 令和 7 年度の生徒アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、76.5%以上にする。【R1：50%】

### ◆基本的な方向 9 家庭・地域と連携・協同した教育の推進

- 令和 7 年度の保護者アンケートにおける「学校は、家庭・地域との連携を密にしている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、令和 3 年度より向上させる。  
【R3：96%】
- 令和 7 年度の保護者アンケートにおける「学校は、地域のボランティアを活用するなど外部人材を活用している」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、90%以上にする。  
【R3：82%】
- 令和 7 年度の保護者アンケートにおける「学校は、情報公開をよく行っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、令和 3 年度より向上させる。【R3：96%】

## 【その他】

- 校区小学校と連携し、令和 7 年度までに小中一貫した 9 ヶ年の教育課程を作成する。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安心・安全な教育の推進】

- ① 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 82%以上にする。【R3 全国調査：80.5%、R4 校内調査：78.3%、R5 校内調査：81%】
- ② 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。  
【R3→17人（在籍比率：11.89%）、R4→28人（在籍比率：19.05%）、  
R5→20人（在籍比率：14.70%）】
- ③ 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、83%以上にする。  
【R3 全国調査：80.5%、R4 全国調査：60.0%、R5 校内調査：82%】
- ④ 年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、98%以上にする。【R3：89%、R4：92%、R5：97%】
- ⑤ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を、前年度より減少させる。【R3：0件、R4：0件、R5：0件】
- ⑥ 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、78%以上にする。  
【R3 全国調査：80.5%、R4 全国調査：82.2%、R5 校内調査：77%】
- ⑦ 年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 84%以上にする。  
【R3 全国調査：68.3%、R4 全国調査：57.7%、R5 校内調査：83%】
- ⑧ 年度末の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、95%以上にする。  
【R3：95%、R4：97%、R5：94%】

### 【未来を切り拓く学力・体力の増加】

- ① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を 44%以上にする。  
【R3 全国調査：29.3%、R4 校内調査：42%、R5 校内調査：43%】
- ② 中学生チャレンジテストにおける、国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。  
【(53 期生) R4 1 年チャレンジテスト 国語：1.0、数学：0.94  
R5 2 年チャレンジテスト 国語：0.99、数学：0.93  
(54 期生) R5 1 年チャレンジテスト 国語：0.77、数学：0.83】



- ③ 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 36%以上にする。

【R3：53.8%、R4：42.9%、R5：35.7%】

- ④ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 66%以上にする。

【R3 全国調査：男子 42.3%、女子 36.8%、R4 校内調査：52%、R5 校内調査：65%】

- ⑤ 令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、1 以上（全国平均以上）とする。（全国平均を 1 とした場合の割合）

【R3 男子：1.11、女子：0.94 R4 男子：1.21、女子：0.96

R5 男子：1.09、女子：0.95】

- ⑥ 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」のそれぞれの項目について、肯定的に回答する生徒の割合の平均を 85%以上にする。

【R3 全国調査：朝食⇒87.8%、寝る⇒78.0%、起きる⇒95.1%、平均⇒87.0%

R4 全国調査：朝食⇒84.5%、寝る⇒68.9%、起きる⇒88.9%、平均⇒80.8%

R5 校内調査：朝食⇒84%、寝る⇒82%、起きる⇒87%、平均⇒84.3%】

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）

【R5：調査なし】

- ② 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 45%以上にする。

【R3：36.67%、R4：42.86%、R5：44.00%】

（基準 1：時間外勤務時間が 45 時間を超える月 0、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下）

- ③ 令和 6 年度の全国学力・学習状況調査の「1, 2 年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と回答する生徒の割合を、34%以上にする。【R3：12.2%、R4：20.0%、R5：33.3%】

- ④ 年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、84%以上にする。

【R3：調査項目なし、R4：84%、R5：83%】

- ⑤ 年度末の校内調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、72%以上にする。【R3：調査項目なし、R4：43%、R5：71%】

- ⑥ 年度末の校内調査における「学校は、家庭・地域との連携を密にしている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、88%以上にする。  
【R3：96%、R4：80%、R5：87%】
- ⑦ 年度末の校内調査における「学校は、地域のボランティアを活用するなど外部人材を活用している」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、72%以上にする。  
【R3：82%、R4：73%、R5：71%】
- ⑧ 年度末の校内調査における「学校は、情報公開をよく行っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、84%以上にする。  
【R3：96%、R4：86%、R5：83%】

**【その他】**

- ① 校区小学校と連携した取組を前年度より増加させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

## 大阪市立梅南中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安心・安全な教育の推進】</b></p> <p>① 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。 【R3 全国調査：80.5%、R4 校内調査：78.3%、R5 校内調査：81%】</p> <p>② 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 【R3→17人（在籍比率：11.89%）、R4→28人（在籍比率：19.05%）、R5→20人（在籍比率：14.70%）】</p> <p>③ 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、83%以上にする。 【R3 全国調査：80.5%、R4 全国調査：60.0%、R5 校内調査：82%】</p> <p>④ 年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、98%以上にする。 【R3：89%、R4：92%、R5：97%】</p> <p>⑤ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を、前年度より減少させる。 【R3：0件、R4：0件、R5：0件】</p> <p>⑥ 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、78%以上にする。 【R3 全国調査：80.5%、R4 全国調査：82.2%、R5 校内調査：77%】</p> <p>⑦ 年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を84%以上にする。 【R3 全国調査：68.3%、R4 全国調査：57.7%、R5 校内調査：83%】</p> <p>⑧ 年度末の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、95%以上にする。 【R3：95%、R4：97%、R5：94%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		上段:担当
		下段:評価
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導上の諸問題について、未然防止・早期対応・早期解決に努める。		生指
指標 教職員間の情報共有を迅速かつ確実にいき、毎月いじめアンケートを実施し、未解決事案を2つ以下にする。		A
取組内容②-1【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 不登校生徒に対して、未然防止・早期対応・早期解決に努める。		生指
指標 学びサポーターやSC、専門機関等と連携しながら、毎学期不登校調査を行い、新たに不登校となる生徒の数を減らしていく。		B
取組内容②-2【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 規則正しい生活習慣を身に付け、登校状況の改善・疾病予防に努める。		生指
指標 生徒会の登校状況改善取組を実施し、前年度より遅刻・欠席数を減少させる。		B
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 日々のコミュニケーションだけでなく教育相談期間を年に2回設け、生徒の思いを共有できる環境を整える。		生指
指標 学校評価アンケートの「先生は私たちの話を聞いてくれる」に対する回答で「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を90%以上にする。		B
取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 服装・頭髪の指導を徹底し、日常的に不備のある生徒をゼロにする。		生指
指標 学校評価アンケートの「学校のきまり・規則を守っている」に対する回答で「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を90%以上にする。		A
取組内容⑤【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 暴力行為について、未然防止・早期対応・早期解決に努める。		生指
指標 暴力・喧嘩分野の指導報告を月間平均3件未満にする。		B
取組内容⑥-1【基本的な方向2 豊かな心の育成】 さまざまな課題を抱える子どもへの関わり方をまなぶため、PBS研修をはじめ、教職員対象の研修を実施する。		研修
指標 教職員アンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある」に対する回答で「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。		B

取組内容⑥－２【基本的な方向２ 豊かな心の育成】 様々な進路選択があることを学ばせ、これからの人生選択に希望を持たせる。	進路
指標 全学年で外部講師を招聘した、講演・講話を実施する。	B
取組内容⑦【基本的な方向２ 豊かな心の育成】 自主的に学習に取り組むことができるように、進路・将来へ目標を持たせる。	進路
指標 体験入学・高校情報などを提示し、生徒が自ら進路選択ができる環境を整える。	B
取組内容⑧－１【基本的な方向２ 豊かな心の育成】 外部講師と連携を図り、講話及び授業を実施し、講話を聴く機会を設定する。	人権
指標 生徒アンケートの「命や人権の尊さについて考えたことがある。」の項目において、「そう思う。」を70%以上にする。	A
取組内容⑧－２【基本的な方向２ 豊かな心の育成】 教科書の読み物教材を使用した授業展開を中心としつつ、人権総合学習ともリンクさせ、生徒の道徳的意識の向上を図る。	道徳
指標 道徳の授業をローテーションで実施し、教員一人ひとりの指導力を向上させる。 また、生徒の学習状況や成長を多面的・多角的に把握して適切に評価する。	B
取組内容⑧－３【基本的な方向２ 豊かな心の育成】 多文化共生教育を推進し、外部講師の講話を聴く機会を持たせ、文化祭などの発表会を実施する。	多文化
指標 外部講師と連携を図り、各学年１回は講話及び授業を行う。	B
取組内容⑧－４【基本的な方向２ 豊かな心の育成】 学年ごとに講話や教材を用いた学習を行い、特別支援学級在籍生徒と通常学級生徒とが、互いのちがいを認め合い支えあう、あたたかい学年・学級集団の育成を図る。	特支
指標 様々な外部機関と連携し、各学年で講話や体験を通して互いのちがいを知る機会を設ける。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①（生指）現在、いじめの未解決事案は０である。</p> <p>②－１（生指）不登校生徒に対して、未然防止・早期対応・早期解決を心掛けている。今年度不登校生徒（病気や経済的な理由を除く。社会的要因・背景により登校しない、あるいはしたくともできない状況の生徒）は１８名であり、うち３名はステップアップルームを利用し個に応じた学習を行った。</p> <p>②－２（生指）生徒会で朝の挨拶運動を行った。Ｒ５年度とＲ６年度の遅刻率を比べると、Ｒ５年度は４．６７％、Ｒ６年度は４．６１％で、０．０６％減少した。</p>	

	<p>(生指) 12月実施アンケートでは、そう思う・大体そう思うの回答が88%だった。しかし、前回実施のアンケートでは96パーセントであったためBとした。</p> <p>④ (生指) そう思う・大体そう思うの回答が99%あった。</p> <p>⑤ (生指) 暴力・喧嘩の指導報告は月間3件以内にとどまった。</p> <p>⑥-1 (研修) 今年度も全職員対象にPBS研修などを行った。7月実施の学校評価アンケートでは89%の教職員が「検討・研修する機会がある」に対する回答で「そう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に答えている。</p> <p>⑥-2 (進路) 1・3年生についてはヒューマンキャンパス高等学校によるSPトランプ、2年生は常翔学園高校を招いて進路講話を実施することができた。</p> <p>⑦ (進路) 体験入学用のファイルを用意し、生徒が気になる学校の情報を受信できる体制を整えた。年間を通してオープンキャンパス等の申し込みを担当教員が支援できる体制をとることができた。</p> <p>⑧-1 (人権) 全学年対象の平和人権講演会にて、フリージャーナリストの西谷文和様より貴重なお話を聞くことができた。事後アンケートで「平和の尊さについて考えることができたか?」という質問に対して99パーセントの生徒が肯定的な答えを選んだ。</p> <p>⑧-2 (道徳) 2学期に行った研修をもとに、教材研究をすることができた。</p> <p>⑧-3 (多文化) 2学期、また3学期に各学年計2時間実施することができた。</p> <p>⑧-4 (特支) 外部や小学校との連携を図り、校内また生徒に特別支援教育について考えることができた。</p>
	<p style="text-align: center;">次年度(今後)への改善点</p>
	<p>① (生指) 今後もしじめの未解決事案がないよう、教員全体で連携を図っていく。</p> <p>②-1 (生指) 今後もし登校生徒に対して、未然防止・早期対応・早期解決に努める。ステップアップルームの在り方や運営については、よりよい形を検討していく必要がある。</p> <p>②-2 (生指) 挨拶運動だけではなく、新たな取り組みも模索し、遅刻者、欠席者が減少するよう努める。</p> <p>③ (生指) 1年を通して90%以上の数値を継続できるよう努める。</p> <p>④ (生指) 今後90%以上の数値を継続できるよう努める。</p> <p>⑤ (生指) 生活指導部で連携し、喧嘩・暴力の事案を今後も減らしていく。</p> <p>⑥-1 (研修) 今後PBS研修や新たな分野の研修を実施し、教員の資質向上を目指す。</p> <p>⑥-2 (進路) 実施校が適当であることを検証し、移り変わる世の中に対応できる生徒を育てる一助となるように支援していく。</p> <p>⑦ (進路) 生徒への支援とともに、保護者への支援が行えるように制度を整える。</p> <p>⑧-1 (人権) 次年度も生徒にとって有意義な講演会を設定し、平和の尊さや人権の大切さについて考える機会をつくっていく。</p> <p>⑧-2 (道徳) 次年度も指導案の作成を行っていく。</p> <p>⑧-3 (多文化) ソンセンニムと早めの連携を行い、2学期初めから余裕を持った計画を行う。</p> <p>⑧-4 (特支) 学校全体で対応できるように各諸機関と連携し、こまめに情報を共有するようになる。生徒にも福祉教育で知識を身につけさせる。</p>

## 大阪市立梅南中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の増加】</b></p> <p>① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を 44%以上にする。</p> <p>【R3 全国調査 : 29.3%、R4 校内調査 : 42%、R5 校内調査 : 43%】</p> <p>② 中学生チャレンジテストにおける、国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。</p> <p>【(53 期生) R4 1 年チャレンジテスト 国語 : 1.0 、数学 : 0.94 R5 2 年チャレンジテスト 国語 : 0.99、数学 : 0.93 (54 期生) R5 1 年チャレンジテスト 国語 : 0.77、数学 : 0.83】</p> <p>③ 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 36%以上にする。</p> <p>【R3 : 53.8%、R4 : 42.9%、R5 : 35.7%】</p> <p>④ 年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 66%以上にする。</p> <p>【R3 全国調査 : 男子 42.3%、女子 36.8%、R4 校内調査 : 52%、R5 校内調査 : 65%】</p> <p>⑤ 令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、1 以上 (全国平均以上) とする。 (全国平均を 1 とした場合の割合)</p> <p>【R3 男子 : 1.11、女子 : 0.94 R4 男子 : 1.21、女子 : 0.96 R5 男子 : 1.09、女子 : 0.95】</p> <p>⑥ 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」のそれぞれの項目について、肯定的に回答する生徒の割合の平均を 85%以上にする。</p> <p>【R3 全国調査 : 朝食⇒87.8%、寝る⇒78.0%、起きる⇒95.1%、平均⇒87.0% R4 全国調査 : 朝食⇒84.5%、寝る⇒68.9%、起きる⇒88.9%、平均⇒80.8% R5 校内調査 : 朝食⇒84%、寝る⇒82%、起きる⇒87%、平均⇒84.3%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		上段：担当
		下段：評価
取組内容①－１【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の増加】 不登校・遅刻の傾向と学力の相関関係を分析し、各領域に即した目標設定を促すとともに、教科研究授業を充実させ授業改善に取り組む。	学力 向上	
指標 経年比較での２、３年生遅刻・不登校を昨年度より減らすとともに、チャレンジテストでの経年学力を各学年上昇させる。	B	
取組内容①－２【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の増加】 双方向オンライン学習を行い、個別学習において生じる様々な生徒のニーズに対応できるようにし、学力向上に繋げる。	ICT	
指標 双方向オンライン学習を行う。資料のファイル共有や家庭学習における課題の配信・提出を各教科で行う。	B	
取組内容②－１【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の増加】 各学年の生徒に応じたチャレンジテスト対策プリントを各学年で作成し、適切な時期に取り組み得点力の向上を図る。	国語	
指標 取り組み内容を実施し、以下の目標を達成する。 １年生：小学校経年学力調査より、梅南中学校の対市比を増加させる。 ２年生：１年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。 ３年生：２年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。	B	
取組内容②－２【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の増加】 各学年の課題に応じた授業形態を実施し、定期テストとは別に到達度テストを実施し、学力の定着を促す。	社会	
指標 １年生：小学校経年学力調査より、梅南中学校の対市比を増加させる。 ２年生：１年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。 ３年生：２年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。	B	
取組内容②－３【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の増加】 各学年の状況に応じて、チャレンジテストの過去問や対策プリントに取り組む機会を設ける。	数学	
指標 １年生：小学校経年学力調査より、梅南中学校の対市比を増加させる。 ２年生：１年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。 ３年生：２年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。	B	
取組内容②－４【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の増加】 プリントやワークによる反復学習や、写真や映像をできるだけ取り入れた授業により、視覚的なわかりやすさを重視することで、基礎的な知識の定着を図る。	理科	



<p>指標</p> <p>1 年生：小学校経年学力調査より、梅南中学校の対市比を増加させる。</p> <p>2 年生：1 年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。</p> <p>3 年生：2 年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。</p>	B
<p>取組内容②－5【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>C-NET を活用した授業を各学年で年間 12 回以上実施し、ネイティブスピーカーとコミュニケーションを図る機会を増やす。また、基礎基本を定着させるために年間 10 回以上の小テストを実施し、スモールステップでの学力向上を目指す。</p>	英語
<p>指標</p> <p>1 年生：小学校経年学力調査より、梅南中学校の対市比を増加させる。</p> <p>2 年生：1 年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。</p> <p>3 年生：2 年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。</p>	B
<p>取組内容②－6【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>1. 授業規律を徹底させ、落ち着いた学習環境で自ら学ぼうとする態度を育む。</p> <p>2. 学習プリントを準備し、自学自習の習慣を定着させる。 PC を正しく使えるように指導し、デジタルドリルなども活用したい。</p> <p>3. テスト前放課後学習会として、自学自習及び個別指導用に教室で学習ができる環境をつくる。</p>	1 年
<p>指標</p> <p>1 年生：小学校経年学力調査より、梅南中学校の対市比を増加させる。</p>	B
<p>取組内容②－7【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>1. テスト前放課後学習や補習などで、自学自習及び個別指導用に教室を開放し基礎学力の定着を図る。</p> <p>2. 怠惰による遅刻や欠席、授業中の居眠りや私語をなくし、学習に対する真摯な姿勢を育むとともに、聴く力や自ら考える力を身につけさせる。</p> <p>3. 家庭学習用の課題を与え、自主的に学習に取り組む習慣を定着させる。</p>	2 年
<p>指標</p> <p>1 年次のチャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。</p>	B
<p>取組内容②－8【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>1. 朝学習を実施し、基礎学力の定着を図る。</p> <p>2. 生活習慣を改善させる。(遅刻数の減少)</p> <p>3. 学習習慣を定着させる。(家庭学習時間の増加)</p>	3 年
<p>指標</p> <p>3 年生：2 年次チャレンジテストより、梅南中学校の対府比を増加させる。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>授業の帯活動等で英検の練習問題に取り組ませる。また、2 次試験対策の参考書等を貸し出し、面接試験の練習を放課後等に C-NET にも協力してもらいながら実施する。</p>	英語

指標 令和５年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル（英検３級）相当以上の英語力を有する中学３年生の割合（４技能）を、４５％以上にする。	B
取組内容④【基本的な方向５ 健やかな体の育成】 保健体育の授業において仲間とコミュニケーションをとる時間を確保し、運動に親しむ態度を育成する。	保体
指標 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を男女とも昨年度より向上させる。	B
取組内容⑤【基本的な方向５ 健やかな体の育成】 体育授業での運動量、時間を確保する。	保体
指標 集団行動や指示の簡潔化を徹底することで、50 分の授業の内、40 分以上を運動時間に費やせるようにする。	B
取組内容⑥－１【基本的な方向５ 健やかな体の育成】 「食」や「健康面」についての情報を発信し、健康の保持増進を図る。	健教
指標 「食育つうしん」や「ほけんだより」を年に６回以上発行し、学級での保健指導、家庭啓発を継続する。	A
取組内容⑥－２【基本的な方向５ 健やかな体の育成】 部活動加入率の増加と退部率の減少を図る。	生指
指標 部活動や地域のスポーツクラブへの入部率を 70％以上にする。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①－１（学力向上）昨年度比での不登校（事故欠席）と遅刻数は各学年で以下の通りとなっている。（２学期までの総数）</p> <p>３年生：事故欠席数 R5：587→R6：587（横這） 遅刻数：R5：314→R6：685（大增）</p> <p>２年生：事故欠席数 R5：365→R6：455（増） 遅刻数：R5：208→R6：155（減）</p> <p>３年生チャレンジテストの結果</p> <p>２年次：８７％ ⇒ ９３％</p> <p>３年生については、遅刻は大增し、欠席者数は横ばいであったが、チャレンジテストの結果については、２年次より改善することができた。</p> <p>①－２（ICT）６月にオンライン接続テストを行った。</p> <p>②－１（国語）各学年の生徒に応じたチャレンジテスト対策プリントを各学年で作成し、適切な時期に取り組み得点力の向上を図ることができている。チャレンジテストの結果が３年生のみ返却され、対府比は 1.03 ポイントだった。１、２年生はまだ返却されていないので中間反省は B とする。</p> <p>③－２（社会）毎回の授業での要点の見直しテストの実施、単元テストの導入などを経て、</p>	

3年生チャレンジテストにおいては対府比が80%⇒88%と8ポイントの改善を行うことができた。

②－3（数学）各学年の状況に応じてチャレンジテストの過去問などに取り組むことができ、結果は3年生のみ返却され対府比は約0.93から約1.00と上昇した。

②－4（理科）写真や映像を取り入れた授業はほぼ毎回実施でき、生徒たちの理解を深めることができた。3年生チャレンジテストにおいては、対府比0.81（R5）⇒0.90（R6）と努力が見られた。1・2年生のチャレンジテストについては結果待ちである。

②－5（英語）各学年でそれぞれ小テストの実施や、C-NETと協力して取り組むことができた。3年チャレンジテストにおいては対府比は0.83だった。

②－6（1年）きちんとした授業規律のもとで授業を行うことができた。ゆるみもあるが、要所所でひきしめている。良い形で2学年につなげていきたい。

②－7（2年）授業中の居眠りや怠惰な雰囲気が少し増えた印象であるが、概ね落ち着いた環境で授業を行うことができた。各教科で家庭学習を課しているが、提出できず指導される生徒も未だ数名いる。

②－8（3年）隙間時間を使って学習している生徒が増えている。3年生の対府比0.83（5）→0.83（R6）と昨年度と変わらず努力できた。

③（英語）GTECの結果は約50%が到達しており、昨年度以上に取り組む姿勢が見えた。

④（保健体育）昨年度は51.5%だったが、今年度は54.5%に上昇している。また、その次のやや好きを入れると昨年度は81.9%に対して今年度は90.9%になっている。

⑤（保健体育）3分前集合完了を徹底して行っている。そのため授業の開始も早く、40分以上運動を行うことができています。

⑥－1（健教）「食育つうしん」や「ほけんだより」を定期的に発行し、学級等での指導も行うことができています。

⑥－2（生指）84%の加入率を達成することができた。

#### 次年度（今後）への改善点

①－1（学力向上）生徒会と協力した遅刻撲滅週間や、不登校生徒向けのステップアップ教室の整備などに取り組んできた。中間評価時には事故欠席数が多かったものが、最終評価時には2年次と同数になるなど、一定の成果を出すことができた。

①－2（ICT）引き続きオンラインで授業や課題に取り組める環境や体制を整える。

②－1（国語）引き続きチャレンジテスト対策のプリントを解かせたり、過去問をやらせたりして得点力をあげることにしていきたい。

②－2（社会）3年生のチャレンジテストに現れた効果的な授業形式や、テスト、課題について次年度以降も継続し、実施していく。さらによりICT機器を取り入れた授業、テスト、課題の方法を模索する。

③－3（数学）引き続き生徒の状況に応じて取り組んでいく。

②－4（理科）チャレンジテスト対策としてテストの形式に慣れさせるとともに、引き続き、興味関心をひくことができる授業づくりに取り組む。

②－5（英語）引き続きC-NETとのチームティーチングの活用や、小テストを行い、きめ細や

かな指導に取り組む。

②－6（1年）中だるみの時期になるが、引き続き落ち着いた環境での授業を行えるよう指導を継続する。

②－7（2年）進路実現に向けて、主体的に学習に取り組む習慣を定着させたい。

②－8（3年）個別相談などを行いそれぞれの進路に集中して取り組む環境を作る。

③（英語）今後も ETEC の対策とともに、英検取得に向けて、ドリルなどの貸し出しを行う。

④（保健体育）やや好きの生徒が45%、やや嫌い、嫌いがそれぞれ約5パーセントになっているのでその生徒たちが「好き」に回答できるよう、日々の授業を工夫していきたい。

⑤（保健体育）体育委員中心授業チャイム前に集合完了できていた。来年度も引き続き継続して行う。

⑥－1（健教）引き続き「食育つうしん」や「ほけんだより」を年に6回以上発行し、健康意識を高めていきたい。

⑥－2（生指）来年度の部活動加入率を上げるために、4月に行われる部活動体験に向け、各部活動顧問や部長と連携していく。

## 大阪市立梅南中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>① 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）</p> <p>【R5：調査なし】</p> <p>② 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 45% 以上にする。</p> <p>【R3：36.67%、R4：42.86%、R5：44.00%】</p> <p>（基準 1：時間外勤務時間が 45 時間を超える月 0、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下）</p> <p>③ 令和 6 年度の全国学力・学習状況調査の「1, 2 年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と回答する生徒の割合を、34% 以上にする。</p> <p>【R3：12.2%、R4：20.0%、R5：33.3%】</p> <p>④ 年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、84% 以上にする。</p> <p>【R3：調査項目なし、R4：84%、R5：83%】</p> <p>⑤ 年度末の校内調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、72% 以上にする。</p> <p>【R3：調査項目なし、R4：43%、R5：71%】</p> <p>⑥ 年度末の校内調査における「学校は、家庭・地域との連携を密にとっている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、88% 以上にする。</p> <p>【R3：96%、R4：80%、R5：87%】</p> <p>⑦ 年度末の校内調査における「学校は、地域のボランティアを活用するなど外部人材を活用している」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、72% 以上にする。</p> <p>【R3：82%、R4：73%、R5：71%】</p> <p>⑧ 年度末の校内調査における「学校は、情報公開をよく行っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、84% 以上にする。</p> <p>【R3：96%、R4：86%、R5：83%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		上段:担当
		下段:評価
取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】 普通教室及び一部特別教室に配備されたプロジェクター、マグネットスクリーンやタブレット等を使用した、一斉授業及びグループ学習、個別学習において生じる様々な生徒のニーズに対応できるようにし、学力向上に繋げる。		ICT
指標 授業中の活用をはじめ、朝の時間、放課後学習会など、さまざまな時間での運用を行う。		B
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ゆとり日の設定や学校組織の見直し、仕事の割り振りを行い、時間外勤務に対する教職員の意識を向上させる。		教頭
指標 時間外勤務時間上限基準の達成率を前年度より向上させる。		B
取組内容③④【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】 授業内での学習者用端末の活用を促進し、ICT機器を扱う技術力と効果的な学習方法を獲得させる。		ICT
指標 ICT機器を用いた授業展開を増加させる。		B
取組内容⑤【基本的な方向8 生涯学習の支援】 学校の施設を開放し、読書ができる環境を整備する。		元気UP
指標 学校元気アップ地域本部事業の地域コーディネーターと学校司書を中心に、昼休みの図書室開放、中学生に勧めたい図書の紹介等を実施する。		B
取組内容⑥【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】 関係諸団体と連携し、地域と生徒、保護者、教職員の関係を深め、地域で子どもを育てる環境を整える。		生指
指標 保護司会学習会、PTA活動、地域一体型防災訓練等、地域と連携する取組を月に1回以上行うか、諸事情により実施が困難な場合は諸団体に情報を発信する。		B
取組内容⑦【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】 学校の施設を開放し、学力向上に取組み、地域コミュニティの場を提供する。		元気UP
指標 学校元気アップ地域本部事業の地域コーディネーターを中心に、各種講座などを実施運営する。		B
取組内容⑧【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】 学校で行われている様々な活動を発信する。		HP 担当

<p>指標</p> <p>週に 1 回以上の HP 更新をし、学校行事や教育活動の様子を公表する。</p>	<p>A</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① (ICT) 各教室プロジェクターやマグネットスクリーンを用いた授業展開を行っている。</p> <p>② 12 月末時点において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 (1 か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えないようにすること) を満たす教員の割合は、50.0%であり現在のところ昨年度末の 44%より 6.0 ポイント上回っている。</p> <p>③④ (ICT) ICT 機器を用いた授業展開を行っている。</p> <p>⑤ 図書開放は可能な限り実施している。新刊の紹介に関しては新刊コーナーの設置や玄関のショーケースでの展示紹介、元気アップ図書だよりを発行するなど積極的に行っている。</p> <p>⑥ (生指) 保護司会学習会や協働員面談など、地域と生徒、保護者、教職員の関係を深める取り組みを月 1 程度行っている。</p> <p>⑦ 紙芝居の読み聞かせや笑い文字講座など、学期に 1 度は講座を実施できた。3 学期には石鹼のデコパージュを実施する。</p> <p>⑧ (HP 担当) 週に 3 回以上の更新をすることができた。</p>	
<p>次年度 (今後) への改善点</p>	
<p>① (ICT) ICT 機器を用いた授業展開が滞りなく行えるよう機器の点検や補充を行っていく。</p> <p>② 引き続き、仕事量の分配や業務の効率化について指導助言を行う。また、ゆとりの日についても各自で設定するように周知していく。</p> <p>③④ (ICT) ICT 機器を用いた授業展開を推進していく。</p> <p>⑤ 新刊紹介や図書開放は積極的に行っているが、図書室の活用率は横ばいである。今後も工夫を凝らして活用率を増加させる。</p> <p>⑥ (生指) 地域と生徒、保護者、教職員の関係を深める取り組みを今後も考えていく。</p> <p>⑦ 今後も各種講座を実施しつつ読書習慣の定着を図り、学力の向上に努める。</p> <p>⑧ (HP 担当) HP 担当で協力し、継続した HP 更新を行っていく。</p>	

(様式2)

## 大阪市立梅南中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【その他】</b> ① 校区小学校と連携した取組を前年度より増加させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	上段：担当 下段：評価
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 校区小学校（まつば小学校）と連携し、年間を見通した小中連携事業を行う。	小中
指標 昨年度同様の年8回の小中連携事業（50m 合同計測会、体育大会合同種目、合同研究授業、部活動体験、文化祭小学生招待、職場体験、国際クラブ交流会、ピアサポート体験）を実施するとともに、小中交流ルームの効果的活用と、さらなる小中連携の形を模索する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①（小中）年間を通してすべての行事を小学校と連携して行うことができた。	
次年度（今後）への改善点	
①（小中）まつば小学校とのよりよい関係構築を目指して、生徒間交流だけではなく、教員間の交流が活発になるように取り組んでいく。	